

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 11 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204185		
法人名	株式会社 アイリーフ		
事業所名	グループホーム アイリーフ五日市		
所在地	〒731-5116 広島県広島市佐伯区八幡2-23-15 (電話) 082-926-2736		
自己評価作成日	平成29年10月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204185-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204185-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様ご家族様が住み慣れた地域で「安心」「安全」「私らしく」生活して頂くために、地域の方々やボランティアの方々に協力をいただきながら暮らしの支援をしています。また、「思い出から、現在、そして未来へ」と、日々の何気ない利用者様の会話の中からエピソードを引き出し思いに寄り添う、思いに至ることを意識したケアを目指しています。また、職員は「笑顔」をキーワードとしニコニコキャンペーンを実施しています。また、利用者様より頂いた「感謝」のちぎり絵を玄関に掲げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム アイリーフ五日市」は植物公園へ向かう道路入口の交通至便な一角にあり、長年培った地域との関わりを大切に、安全な環境づくりに努め利用者の穏やかな生活を護り、その人らしく暮らし続けられるような支援に取り組んでいる。職員と共にボランティア他が掃除や花作りに参加協力し、利用者のライフスタイルや生きがいに寄り添いながら「笑顔の絶えない日々」を心がけた生活を育てている。家族会の充実や外出行事でのサポートなど、関係者も含めた更なる信頼関係の構築に努め、多彩な催しを通じて世代を超えた交流を深めつつチームケアの向上を目指し尽力している事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「入居者」という理解ではなく「生活者」として理解し「暖かい家庭の雰囲気そのままに」を理念とし業務実践に努力している。理念は生活者、職員とにも見えるホールに掲げている。	信条である「生活を共にする」自然な暮らし方を見定め、利用者がその人らしく過ごせる毎日であるよう理念を共有し、日々のケアに活かす取り組みに努めている。「思いやりと笑顔」の年間目標に向かい職員間で意識統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、町内の行事やお祭りなどに「入居者と地域が繋がる場づくり」に努めている。併せて、地元の保育園児との定期交流や中学生の「職場体験の受け入れ」福祉学生のボランティア受け入れなどを通じて、世代間交流を図っている。	町内行事の川掃除に参加したり、保育園児が定期的に訪れ歌や折り紙のプレゼントをするなど、餅つき会への参加も含め和やかな世代間交流を図っている。中学生の職場体験・老人会との交流・施設見学会など多彩な催しを企画し地域との絆を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターとの共同により「認知症サポーター養成講座」に講師としてスタッフを派遣している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月に開催の運営推進会議では、生活しておられる皆様の暮らしの様子を報告し、参加メンバーから質問や意見の情報交換の場となっている。また、本会議により、年2回消防署と地域に参画頂き、火災訓練（通報・避難訓練）を実施している。	当会議には、多方面からの地域代表者・行政関係者の参加を得て、近況報告や行事報告と共に活発な意見交換がなされている。年2回の防災避難訓練を組み合わせることで、地域ぐるみの交流を含めた幅広い会議内容になるよう工夫している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市介護保険課・佐伯区健康長寿課には不明な点があれば気軽に連絡し、近所の方からの相談があれば地域包括支援センターへ繋いでいる。	普段から相談や手続きなどで連携をし、地域包括支援センター職員とも研修案内や地域の行事情報を得るなどの関わりを深めている。職員が認知症アドバイザーとして公民館で交流の輪を広げ、積極的に協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「心身介護」（行動の動機となる五感へのアプローチを基調としたアイリーフが提唱する介護理念）を介護職員が念頭におき「その人らしさを支援するためには何が必要か」を現場に据えて、介護観を育んでいる。「身体拘束」についてはマニュアルがあり暮らしの中で（介護業務）職員間で拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>心身共に健全で安心した生活を送るためにも、なるべく制約を加えない見守りによるケアに努めている。マニュアルをもとに、日々の生活において身体拘束をしない支援への啓発を促し、職員間で実践に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>「ヒヤリ・ハット」委員会を設置し、情報交換を行っている。「その声かけは、どうなのか」「自分が言われたらどうなのか」など、「無意識のうちにしていること」を話しあえる雰囲気づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人（弊社）にて実施の「管理者研修」スタッフ全体研修（1回/年）により研修を重ねている。成年後見人制度については、個別に相談を受け関係の地域包括支援センターからの協力や助言を頂き、利用者家族に情報提供を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には出来るだけ「解かりやすい」表現をもって説明させて頂いている。また、契約後も、不安や疑問などがあればいつでも、必要の都度対応させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>月1回のお手紙にてご家族へ暮らしの様子を報告し、ご家族から意見や要望のし易い関係づくりをしている。また、施設行事の参加募集に努めている。</p>	<p>面会時やイベント時に要望・意見を伺い、相談しやすい雰囲気づくりに努め、温かな対応を心掛けている。年2回開催の家族会では、スライドショーで暮らしの様子を知らせ、毎月のお便りに担当スタッフ直筆による心のもった手紙を添えるなど細やかな配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>法人内にて、職員の頑張ったで賞「月間MVP制度」を行っていたが、職員より廃止の意見があり廃止とした。「ありがとう賞」とし誕生日を入居者と職員共に祝う日に変更した。また、職員の要望にてウッドデッキの修理を完了した。</p>	<p>毎期、職員は個別のチャレンジシートに目標を記し、自ら意識付けを行い支援に当たっている。課題も含めスタッフ会議などで話し合い、より良い職場環境づくりを図っている。備品の調達やモチベーションアップにつながる仕組みづくりにも工夫している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務時間の見直しを行い、まずは実践職員の働き方を見ながら、時に意見を聞きシフト調整している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎期「チャレンジシート」を各自個別に作成している。自己目標を設定し「自己課題」を持って法人全スタッフ対象の「スタッフ全体研修」や「管理者研修」を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>佐伯区介護支援専門員自主勉強会や小規模多機能連絡会や若年性勉強会のボランティア等に参加し、他施設との交流により、よりよい施設にするよう考えている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご本人に寄り添い、お気持ちを汲みながら、安心して暮らして頂ける様に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>本人様、家族様の慣れない所で暮らす事への不安や疑問に答えながら、落ち着いて生活して頂けるようになるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>契約時、入居開始時に聞き取りを行い、まずは安心した生活を送る何が必要なのかご本人様ご家族様のご要望などお聞きしながら、可能な限り対応できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ユニットの中に「共生の空間づくり」を意識している。「本人の存在」「本人の役割」を職員全体が認知し、日々笑顔で、お仲間・家族・友人・職員一緒に支援している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月の手紙に楽しいエピソードなど書いたり、面会時にご家族様とご本人様に共通の話題が出来る様努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族以外のご友人などの面会、外出などもご家族様にお知らせしながら受け入れや支援をしている。</p>	<p>歌声ユニットやチロリアンダンスのボランティアとの交流をはじめ、利用者の自宅近所の方が訪れたり、地域の盆踊りの輪に入り一緒に踊るなど、これまで大切にしてきた懐かしい関係が保ち続けられるよう支援している。思い出の場所に出かけ旧知とのふれあいを個別ケアに活かす取り組みにも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者様同士で対話ができる様介助したり、レクリエーションなど一緒にできるよう声掛け、介助をしている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退所後も訪問、連絡などで今まで築いた関係性が途切れないよう支援している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日頃の何気ない会話の中から、今の想いややりたいこと会いたい人等を確認し、家族や職員と思いを共有し、思いを実現出来る介護を目指している。	会話や普段のふれあいから意向や思いを汲み取り、メモリアルストーリーを大切にしつつアセスメントに活かしている。個々の有する能力が発揮できるよう意欲の増進につながるケアに取り組んでいる。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	本人や家族より聞き取り、兄弟、親戚、友人等の面会聞き取りを行い「過去の状態」の理解に努めている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	日常の中で「出来る事」については出来るだけ「役割」と「関わり」をもって本人がより良く暮らす課題と、家族・本人・関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のユニット会議で一人ずつのケアカンファレンスを実施し、問題点等を話し合ったうえで、ご家族や看護師、主治医や本人の意志を取り入れながら“その方らしい生活”を送って頂けるような、ケアプラン作成に努めている。</p>	<p>担当スタッフが日々知り得た情報やフェイスシートをもとに、利用者・家族・医療関係者の意見を加味しながらニーズに沿ったプランづくりに努めている。毎月のスタッフ会議でモニタリングを行い、半年毎に介護計画の見直しを図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>朝夕の申し送りや、カンファレンス時に出来事や様子・言葉や気づきなどを話し合ったり、普段の様子を24時間の行動の記録にまとめ、受診時に渡している。個々のケアの中での“思い”をプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>訪問美理容、訪問マッサージを利用して。地域のボランティアによる朝の施設内清掃時の交流。職員のピアノ伴奏の音楽会やドライブや散歩に出掛けるなど臨機応変に支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>秋祭り、餅つき等ボランティアの方々や地域の方達の協力を頂いている。施設の看板に地域へ向け広報として発信している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>これまでのかかりつけ医を継続しながら、協力医の往診があったりする。看護師や職員が普段の様子や、些細な変化をかかりつけ医へ伝えている。電話にて報告・連絡・相談・指示を受けている。</p>	<p>内科は二週間毎、歯科は毎月の訪問診療があり、緊急時対応も含め協力医との連携が密に行われている。感染症予防対策として手洗い・うがいの奨励を行い利用者の健康管理に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>入居者の言動や精神面・身体的な些細な変化・気づきを看護師に伝え相談し、主治医へ報告・相談をし、個々に適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院前後、主治医とソーシャルワーカーと情報交換し、入院中も連携を取りながら早期に退院できるよう努めている。退院後の様子も相談員に報告している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所時に家族の看取りの気持ちを聞いたり、早めに本人から聞いている。個々の看取り期に寄り添うケアの為、家族・知人・協力医の協力を得ながらサービスを提供している。</p>	<p>ターミナルケアに関する指針があり、利用者・家族の思いに寄り添い、最後までその人らしく過ごせるようチームケアの向上に努めている。医療関係者との連携やバックアップ体制も整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>「ヒヤリ・ハット」委員会を設置し、情報交換を行っている。「その声かけは、どうなのか」「自分が言われたらどうなのか」など、「無意識のうちにしていること」を話しあえる雰囲気づくりに努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、消防署予防課の指導を仰ぎ防火管理者が、運営推進会議を利用して、地域代表者の方々と避難訓練を実施している。</p>	<p>利用者や地域住民と共に、年2回消防署員立ち会いのもと防災避難訓練を実施している。災害時対策として地域との協力体制を整え、避難の受け入れや備蓄などの整備に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人に関心を向け、自分の価値観で話をしないようにする。人生の先輩から教わる気持ちで、失礼の無いように心がけている。	職員は節度を保った接遇や声掛けに留意し、日々のケアにおいて余裕のある時間配分や、トイレ誘導の際には小声で促すなど利用者の尊厳を護る意識を高めている。個人情報管理にも配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	いつも笑顔で接して、話を聞く際には、相槌を打つなど、しっかり聞いている事が伝わるようにして、話しやすい雰囲気作りをしています。又、ご本人が選択できる機会を、意図的につくるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	支援する際は、ご本人に了承して頂いてから行うようにしている。会話などから、希望や願いを受け止め、それらを叶える環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服はご本人に選んで頂いたり、相談に乗ったりして納得して頂いたものを着られている。整容は、声掛けをして行って頂いたり、ご希望を伺って散髪など行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節や行事など考え提案したり、ご希望を訪ねたりしてメニューを決めている。お話しをしながら一緒に作ったり、片付けたりして楽しいと思ってもらえる様になっている。又、体調や食べやすさに配慮したり、盛り付けなど工夫して視覚に働きかけたり、おいしそうに感じる声掛けを行っている。	昼食は職員の手作りで、食材の買い物や後片付けなどを一緒に行い、旬の野菜や季節の味覚を楽しむ工夫をしている。一人ひとりの誕生日に好みのメニューで祝い、敬老会や節分の巻き寿司などの行事食や、お好み焼きパーティー他、和食の外食など食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態を主治医・看護師・他の職員などと相談し食事を提供している。水分量の少ない方にはゼリーやヤクルト、ジュースなどで対応している。また、更に日によって食欲や、体調が違う為、好きな物を出来るだけ提供できるよう工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、歯磨き・うがいの声掛けを行っている。個人の力に応じて必要時介助を行い、おひとりおひとりにあった口腔ケアを心がけている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>おひとりずつの排泄パターンを把握できるよう声掛け・誘導を行っている。また介助の必要性を見極め、残存機能を活かしたケアを行っている。</p>	<p>水分補給や体調コントロールに留意し、自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間対応としてポータブルトイレ使用者もいるが、日中は、ほとんどリハビリパンツにパッド対応でトイレ誘導を行い、様々な生活活動を通じ筋力保持に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維を十分に摂取し“水分”“栄養”“運動”の不足にならない様に気を付け、便秘の解消に努めている。自分で排便できない方に対して、乳製品や下剤などを使用し、定期的な排便を促すよう心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に週2回程度、入浴を実施している。体調不良や拒否があった場合は、曜日や時間を変えて入浴を促し、清潔を保てるよう支援している。</p>	<p>その日の心身状態に合わせ、なるべく意向に沿った入浴支援を行っている。利用者の仲良し同士で入浴したり、柚子やレモン風呂など香りも楽しみながら、心と体のリラックスにも配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人一人の体調に配慮し、整え させて頂いた居室環境で、自由 に安心して休んで頂ける様に している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>看護師による薬のチェックと、 入居者の安全な内服方法を確 認している。また、職員は薬局 からの詳しい薬の内容を確認し、 副作用を理解し内服介助をし ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>洗濯物をたたんだり、塗り絵、 貼り絵、折り紙、歌をうたうな ど、個々に応じた楽しみ事を支 援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は一人一人の希 望に応じて、ベランダに出て頂 いたり、駐車場辺りまで気分転 換に出て頂いたりしている。バ スで湯来まで行き、二階の方 や家族の方々とのふれあう機 会もあった。</p>	<p>日常的に散歩や買い物など近 所に出かけ、外気に触れるよう 心がけている。外出行事とし て家族と一緒に湯来ロッジに出 かけ、四季の風情を楽しんで いる。市内や極楽寺山へのドラ イブなど個別外出にも取り組 んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>現段階ではお金は使っていない が、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を使う事は、良 いと思う。売店が開かれると 良いのかもしれない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>手紙を期日内に書いて提出している。ご希望があればお電話を掛けられるお手伝いをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の皆さんが住みやすい様に掃除を心がけている。車椅子の方も通りやすい様空間を広く取り、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。</p>	<p>換気や掃除を行い、気持ちよく過ごせる共用空間づくりに努めている。広くゆったりとしたリビングは、レクや様々な催しの場としても活用し、心身の活性化を図っている。リニューアルしたウッドデッキはそうめん流しや、日光浴も楽しめるスペースとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>TV付近にソファを置き、利用者の顔が見えやすくしている。それぞれの居室も近く、出入り自由で、共用空間の中でも、個々に対応できるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際、ご家族にご本人が安心できる環境にさせていただく為に、本人の大切にしていた物を沢山持ち込み、馴染みのものに囲まれた環境整備を依頼している。</p>	<p>家庭に居るような個性を活かしたレイアウトに配慮し、使いやすい家具の配置や趣味の品・家族写真を飾り工夫している。職員手作りの誕生日祝い作品を掲示するなど、個々が落ち着いて過ごせるよう温かみのある居室づくりを心がけている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>(できる支援をしている。)トイレ、風呂などの入り口に案内の張り紙をしたり、声掛けによりご自分で思い思いに過ごされても、安全なように動線を考える工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム アイリーフ五日市

作成日 平成 29 年 12 月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	お看取り等が重なり新しい入居者様6名を迎え、また新しい職員が入職し基本から考えていく。アイリーフ五日市に暮らしておられる方々が、生き生きとされているか。	入居者様ひとりひとりの気持ちに寄り添う関わりの時間を作る。	1. 入居者様ひとり一人に担当職員を決め入居者様の生活歴・嗜好品等本人・家族・知人等情報収集し、個々の担当者が主になり入居者様の現状を把握し現在の思い・希望を支援していく個別ケアを構築する。 1. 家庭訪問 2. 担当者との散歩 3. 地域のサロンに参加 4. 担当者会議の充実を図る	1年間
2					
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。